

# 野菜が育つ旅に出かけよう

## ～種から食卓まで ご飯はどこから来たの?～プロジェクト

代表者 橋本 朗 (農学部応用生物科学科 2 年)

### 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、農学部ボランティアサークル A S U S の活動の一つであった「収穫体験」をグレードアップさせたものです。この収穫体験は、三木町在住の小学生を対象に、毎年農学部の畑で行われているイベントで A S U S が主催するイベントの中でも人気のあるものの一つです。例年、A S U S のメンバーが春から準備してきた野菜を 11 月下旬から 12 月上旬に小学生を集め、その野菜を収穫してもらい、それを調理し食べるという一日イベントでしたが、今年は、「野菜を育てるところからやりたい」という参加者の声や、メンバー一同、子どもたちに、収穫して食べるだけでなく、どのように野菜が育つのかということから一緒に学べる機会を作りたいという思いから「野菜や理科に興味を持つ場や香川大学農学部を知ってもらおう」という目的のもと、このプロジェクトに申請させていただきました。例年と異なる点としては、1 回開催から 3 回開催にしたこと、冬野菜だけでなく夏野菜にも触れられる機会を作ったこと、収穫だけでなく種まきが体験できる企画も取り入れたことです。

### 2. 実施期間 (実施日)

平成 28 年 6 月 29 日から 平成 28 年 12 月 4 日まで

### 3. 成果の内容及びその分析・評価等

1. の目的で述べたように、子どもたちに野菜に多く触れてもらうために、畑づくりや水やり、草取りや追肥といった野菜作りに欠かせない作業は普段から A S U S メンバーで行って来ました。毎日欠かさず行った水やりや、様子見のおかげで、各イベント時にはたくさんの量、種類の野菜が畑に実っているという状態になりました。畑づくりや夏野菜は予算執行可能となる前から行っていたため、ここでかかった費用は当該事業の予算から執行することが出来ず、A S U S の部費からの支出となってしまいました。

## (1) 夏イベント

8月6日、農学部キャンパスで第1回イベントを行いました。とてもいい夏日で、熱い太陽の下、参加者と共に大学生スタッフも楽しみながら行うことが出来たイベントとなりました。

夏野菜イベントのために育てた野菜は、トマト、キュウリ、トウモロコシ、冬瓜、ナス、メロン、大葉などで、初めに畑でこれらの野菜を収穫しました、そして室内に戻りトマト、キュウリを主な題材として授業を行いました。初めに夏野菜の導入として、野菜クイズを行いました。次にトマトはトマトに関する授業を行いながら、5種類の品種を育てて味や大きさ、色の違いを実際に感じながら品種によってトマトにはいろいろな違いがあることを実感してもらうことが出来たと思います。キュウリは、収穫ピークが、イベント当日よりも早く来てしまい、当日に収穫するキュウリがなくなってしまう恐れがありました。そのため早く収穫できたキュウリを使ってザラメ漬けを作り、当日はこのザラメ漬けを使ってキュウリの浸透圧を説明する授業を行いました。イベントの最後は、収穫した野菜を持って帰ってもらいました。

このイベントの告知は三木町役場を通して、三木町の4つの小学校すべてにチラシを各5枚ずつ配布させていただきましたが、当日の参加者は1世帯のみでした。例年冬にしか行っていなかったことと、子どもたちに掲示が目にとまらなかったからだと考えています。しかし、参加して下さったこのご家族は毎年私たちのイベントを楽しみにしていると話してくださり、私たちのモチベーションをあげるものとなりました。



## (2) 秋イベント

10月3日、農学部キャンパスの畑で作業を行いました。この日は、作業前日の夜が雨だったので、当日の天気が気になりながらの開催となりましたが、当日はとてもよく晴れた秋晴れの中、部員ともども活動を行うことができました。

秋のイベントでは、主にマンバ（高菜）とジャガイモにフォーカスしてイベントを行いました。なぜ、この二つかと言うと、このイベントの目的が、冬野菜の収穫前の姿を見てもらうことでしたので、冬のイベントで使おうと考えていたジャガイモとマンバ、特にマンバに着目しました。行ったことは、マンバの苗のスケッチ、マンバの種まき、苗植え、マンバについての授業、土とマンバのクイズ、マンバが育つために必要なこと、という3つの座学を行いました。マンバのスケッチと植える作業では、イベントの一週間前に、天候の問題で、栽培していたマンバの苗が腐ってしまうというアクシデントがありながらでしたが、行うことが出来ました。本来は、苗の植え付けだけを予定していましたが、このアクシデントにより、種のほうにも触れる機会を設けることが出来たので、良かったのではないかと思います。また、座学においても、子どもたちだけではなく、親御さん方も知らなかった内容を提供し、クイズを交えた楽しくも実りのあるものを作ることが出来たのではないかと感じました。

このイベントも、夏同様に、三木町役場を通して、三木町の4つの小学校にチラシを配ってもらいました。こちら初めての試みだったこともあって、参加人数も、3人と前回よりは増えたものの、少ない人数になってしまいました。しかし、その中でも、とても楽しかったということ伝えてくださり、部員一同、冬に向けてのイベントへの活力になりました。





### (3) 冬イベント

秋イベントで植えてもらったマンバを、この日まで私たちが世話をし、12月4日にこのプロジェクト最後のイベントで収穫、調理を行いました。今回は参加者を増やすために、各小学校に、全校生徒分のチラシを持って行き、先生方から児童に配っていただきました、そのおかげもあり、この日の参加児童は20名で、またその親御さんや兄弟姉妹にも参加してもらうことが出来ました。イベントの内容は、マンバ、ジャガイモの収穫、マンバやジャガイモに関する授業、栄養素の点から野菜を食べるとよい理由を伝える授業、野菜はどのようにして食卓に並ぶのかを流通の観点から伝える授業、日本食のすばらしさ伝える授業を間に挟みながら、香川県の郷土料理である、まんばのけんちゃん和サラダの人気メニューであるポテトサラダを大学生と子どもたちで調理しました。

収穫では、当日までにとってもたくさんのジャガイモが畑で育ち、子どもたちは楽しそうに収穫をしていました。マンバは、半分くらいが虫に食べられてしまったので、収穫はしたものの、調理ではスーパーで買ったマンバを使用しました。

授業は、子どもたちが飽きないように、クイズを混ぜたり、調理の途中で行ったりしたものの、やはり内容を盛り込みすぎてしまい、途中で子どもたちが飽きてしまっていたので、コンテンツを絞るべきでした。

調理は1テーブルに4人の子どもたち+ASUSスタッフが付き、机の近くにも親御さんについていただき、安全第一で行うことが出来ました。直前に畑から収穫してきたマンバやジャガイモを調理して、出来上がったまんばのけんちゃん和ポテトサラダをほおばる子どもたちはとても嬉しそうで、何回もご飯をおかわりしていました。親御さんにも食べてもらうことが出来てよかったです。



#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、農学部のある三木町の子どもたちに、食育ができたと思っています。例年までの1回イベントでは出来なかった、野菜が育つまでの過程も、今回3回のイベントを通して示すことが出来たと考えています。3回の活動を通して参加して下さった参加者の方もいっしょに、それだけ私たちの活動が三木町の子どもたちやその親御さんに注目されていることを実感することが出来ました。これらのことから、ASUSおよびこのプロジェクトが、子どもたちにとっては「参加したい」、親御さんにとっては「参加させたい」と思ってもらえるような活動であり、大学と地域をつなぐパイプとなる重要な役割を果たしていると言えます。またASUSが運営しているFacebookページにも随時イベントの様子をアップさせてもらい、大学生と子どもたちが地域で活動していることを外部に発信することが出来ました。

Facebook：香川大学農学部ASUS <https://www.facebook.com/kagawa2013asus/?fref=ts>

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回本プロジェクトの実施を通して、企画運営や広報の仕方、また野菜栽培の大変さを学ぶことが出来ました。

これまでにASUSでは様々な小学生向けのイベントを行ってきており、収穫体験以外にも化学実験教室等、様々な実績を持っています。しかし今回のような一年を通したプロジェクトはこれまでに実施した経験がなく、自分たち自身でもわからないところや手探りのところがありました。また扱うのは野菜であるため、自分たちの思うようには成長してはくれません。そのような中で一年の計画を立てることはとても難しいことでした。しかしその中でもメンバーで協力して、土日に畑を整備したり、野菜の育て方を調べたり、時には先生に相談したりしながら野菜を育てていくことで、少しずつ時期を調整しながら農作業を試みたり、先を見据えて計画が立てられるようになっていきました。



また研究室分属前の2年生が中心である私たちにとって、自分たちでいわば実験をするように野菜栽培ができたことはとても良い機会でした。また3回のイベントを通して、イベントの告知の仕方も考えることが出来ました。3回目のイベントは親御さんの目に留まるようにチラシを近所のスーパーにも貼らせてもらいました。対象をしばって効果的に広報することの重要性を考えることが出来ました。



これらで学んだことは、今後の収穫体験イベントだけでなく、他のASUSイベントや自分自身にも活かしていきたいと思えます。



## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

私たちは、今回前年度来ていただいた地域の方々の要望に応えるべく、昨年までは1回しか行っていなかったイベントを3回に増やして行いました。また、内容も前年度の反省を活かしたものにしようとしたのですが、上手くいかなかった面が多々あったと考えられます。1つ目は、かなりの重労働だったこともあり、部員を酷使してしまったことが挙げられます。畑においても、連作障害という畑において一番厄介な問題を無視してイベントを行ったため、部員に関しては、集合率の低下や参加意欲を下げてしまったのではないかと感じています。2つ目は、正しく広報活動が出来なかったことです。今回新たに夏と秋にイベントを開催しました。その時の参加人数は、どちらとも一桁でした。しかし、例年行っている冬のイベントには、20人の子どもたちが参加してくれました。この差には、広報のやり方が考えられます。夏と秋は、三木町のある小学校の各クラスにチラシを数部ずつ置いてもらい、興味のある子どもに参加してもらおう体制をとっていました。しかし、それでは人数を集めることが出来なかったため、冬は、三木町の小学校の全ての児童に配布物としてチラシを配ってもらえるように手配し、スーパーマーケットなどの人が多く集まる場所に貼りました。このことから、広報についてもっと考えた上で、チラシの配布の仕方などを考えるべきであったと感じました。3つ目は、予算を執行しきれなかったことです。これは、イベントが終わった後に行うつもりだった土の入れ替えが行えなかったことにあります。来年度、もしこのプロジェクトが継続できるのならば、もう少し予算のあり方や使い方などについて真剣に考えなければいけないと痛感しました。

その中でも、夏と秋に参加してくださったご家族が、また冬のイベントに参加してくださった時に、「秋にマンバを植えてから娘がとても気に入って、見に行こうとせがんでくる」と話してくださったり、「香川大学っていろんなことをしているんだね」という声もあったことから、当初の目的であった「野菜や理科に興味を持つ場や香川大学農学部を知ってもらう」機会を提供できたのではないかと感じています。

今後は、もう少し畑や部員たちとのコミュニケーションを取りながら、部員も楽しめて、地域の方々にも興味をもってもらえるようなプロジェクトにしていきたいと思えます。

## 7. 実施メンバー

代表者 橋本 朗（農学部2年）

構成員 夏目 佳奈（農学部2年）

重光 悠雅（農学部2年）

宮脇 愛子（農学部2年）

中島 健登（農学部2年）

萩原 奏（農学部2年）

田中 滉己（農学部2年）

井上 楓（農学部2年）

富田 真澄（農学部2年）

田籠 星太（農学部2年）

鈴木 優（農学部2年）

吉田 光寿（農学部3年）

川崎 稔弥（農学部3年）

田野 雅子（農学部3年）

堀田 吏香（農学部3年）

青葉 実優 (農学部 2年)  
紙本 拓也 (農学部 2年)  
山田 実里 (農学部 2年)  
小池 裕之 (農学部 2年)  
安藤 愛海 (農学部 2年)  
安倉 佳杏 (農学部 2年)

上原 健 (農学部 1年)  
秋山 実穂 (農学部 1年)